

## どうなるデマンドバス

### 利便性等見直し 続ける



みやじま ようこ 議員  
宮地 葉子

**答** 西村企画調整室長

公共交通は地域の生活を支える基盤であり、将来にわたり持続可能で利便性の高い制度を実現していくと共に、効率的な運用も考えていく必要がある。

**問** 高齢化が進む中、車の運転が出来なくなる方が増えている。車が運転できないと、病院や買い物に行く等の用事を足すのに困ってしまう。

大西前町長がデマンドバスは平成31年度までに全町内を走らせる予定との答弁をしてくれたが、現実は様々な条件が満たされず、また現状の変化もあり実現していない。今後、デマンドバスはどうなるのか、町としての考えを伺う。

デマンドバスは今後も続けるが、県下全体の課題でもある運転手不足と言う難題等がある。今後、それらの課題解決に向け、利用状況等の検証もし、運行事業所と協議をしていく必要がある。

国の改正された補助事業に合わせた計画の策定を令和3年度に取りまとめ、利便性と財政面を考慮し、効率性の向上を図りながら公共交通ネットワークを形成すべく取り組んでいく。



デマンドバス

## 防災対策

### コロナ対策 万全か

### 日頃から各自で準備が大事

**問** 防災対策は地震、津波だけではなく、近年頻りに起こる地球温暖化による異常気象がもたらす豪雨土砂災害がある。それに加え、今年はコロナ対策が大きな問題として浮上した。避難所へ避難するにもコロナの感染が不安で、迷ってしまう等の声もある。

先日、町の婦人大会を開催し、徳廣課長に防災についての講演をお願いして自分の命は自分で守るための研修を行った。それらを含め、防災対策への備えを伺う。

**答** 徳廣情報防災課長

豪雨土砂災害の対策は30年度から各地でワークショップを行い、令和4年度には、土砂災害の恐れのある地域で自主避難計画が作成される予定。その上で、計画が出来たから終わりではなく、出水期に活用し、見直し等も行い取り組みをしていく。

避難所での感染症対策

は対策マニュアルを作成し、避難所の開設、運用に必要な消毒液やマスク、検温器等をケースにまとめ整備している。また長期生活の対策として、飛沫拡散防止対策とプライバシー確保として「間仕切り」を整備するための予算を本会議に提案した。しかし完璧な感染対策は困難で、日頃より個人でマスク、消毒液、体温計等の準備をして、避難先で感染拡大予防に努めて頂きたい。

一番気を付けて欲しいのが、コロナを恐れて避難しないことで、そうではなく、まず命を守るために避難する。その上でコロナ対策も万全にして頂くことが必要と考える。



令和2年度 黒潮町婦人大会の一コマ